



2022年1月28日

各位

会社名 SMN株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 井宮 大輔  
 (コード番号：6185 東証第一部)  
 問合せ先 執行役員 鈴木 勝也  
 (TEL. 03-5435-7930)

**業績予想の修正に関するお知らせ**

最近の業績動向等を踏まえ、2021年4月30日に公表しました2022年3月期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

1. 業績予想の修正について

2022年3月期通期連結業績予想数値の修正 (2021年4月1日～2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 15,100	百万円 400	百万円 380	百万円 110	円 銭 8.42
今回修正予想 (B)	13,100	50	35	△110	△8.39
増減額 (B-A)	△2,000	△350	△345	△220	
増減率 (%)	△13.2%	△87.5%	△90.8%	—	
(ご参考)前期実績 (2021年3月期)	12,115	303	293	△38	△2.96

2. 修正の理由

当社グループは引き続き成長が見込まれる国内インターネット広告市場において、既存サービスであるアドテクノロジー、マーケティングソリューション、デジタルソリューションへの継続的な投資を実施し、成長を目指しております。

2022年3月期は経営方針として、「アドテクノロジー既存サービスの強化」、「アドテクノロジー新領域でのサービス展開」、「事業領域拡大」を掲げております。2021年7月30日に公表しました連結業績予想については、新型コロナウイルスの影響が2022年3月期上期から徐々に改善し、年度末までには概ね収束して経済活動が正常化されることを想定しておりました。

上期はアドテクノロジー領域においてはTVBridge等の新商材販売は堅調に推移し、マーケティングソリューション領域においては既存カテゴリの伸長、デジタルソリューション領域においても連結子会社ASA株式会社の成長などにより順調に推移したものの、O2O事業における不採算案件の発生、連結子会社ルビー・グループ株式会社のPMI遅れによるグループシナジー効果発現の遅れ、代理店事業における大型アカウントの失注の影響があり、当初予想を下回って推移いたしました。下期に入り、引き続きアドテクノロジー領域においてはTVBridge等の新商材販売は堅調に推移し、上期の課題であったO2O事業の不採算案件の整理、ルビー・グループ株式会社のPMIの進捗、代理店事業の体制強化による新規アカウントの開拓は進行しており、2022年3月期第2四半期を底として回復傾向にあります。また、アドテクノロジー領域の売上が集中する2022年3月期第4四半期は、ソニーグループおよび好調カテゴリの販売拡大、コンテンツマッチ広告などの好調商材の販売拡大、動画、ブランディング広告の強化を進めてまいります。当該施策の一部について



て進捗や効果発現に遅れが発生していることなどから例年の成長には届かず、下期も当初予想を下回る見込みとなりました。また、現在の新型コロナウイルスの再拡大の影響も踏まえ、通期連結売上高は2,000百万円の減少を見込んでおります。費用については削減を行っておりますが、売上高の減少の影響で営業利益が350百万円、経常利益が345百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が220百万円減少する見込みとなりました。

以上の結果、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益のいずれも前回発表予想を下回る数値となる見込みであるため、業績予想を修正するものであります。

(注) 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以 上